

イロハ

i r o h a

Colorのコトが色々わかる。

 N°3
2018. SPRING

何かを実現するための

- 38 いろいろなコトバ vol.2 「気分はブルー」
- 40 色たちのカーテンコール
- 42 配色を学ぶ前に知っておきたいコト
- 46 いろいろな色をコーディネートする
色相・トーン編
- 54 世界の色紀行 3rd trip フランス編
- 55 【特別付録】PCCS ⇔ CMYK 対応表
次号予告



【今号の表紙】

暖冬の後に咲く桜の色は薄くなるらしいです。逆に、寒さが厳しい冬を越えて咲く桜の色は、鮮やかな色になるんだそうです。厳しい環境を乗り越えようと、必ずご褒美が待っているんですね。

表紙の写真「白石ころーど（桜）」
撮影：木村珠美

企画・編集：木村一希（アイワード プリプレス部）

参考文献：佐藤好彦 著『デザインの教室 手を動かして学ぶデザイントレーニング』株式会社エムディエヌコーポレーション／2008
都外川八恵 著『配色&カラーデザイン デザインラボ』ソフトバンククリエイティブ株式会社／2012
城一夫 編著『徹底図解 色のしくみ』新星出版社／2013
大里浩二 監修・フレア編『すべての人にとってほしい配色の基本原則』株式会社エムディエヌコーポレーション／2013
フォーク株式会社ホームページ『色の力』(Web)
『Blues やねん!』FC2 ブログ (Web)

いろいろな コトバ



このコラムでは、色を使った言葉の謎を解き明かしていきます。

「気分はブルー」



今日は、何をやっても上手くいかない。そんなブルーな気分の方はいませんか。大丈夫ですよ。そんなにブルーにならないで。悪いことが続いたのだから、次はきつといいことがありますよ……多分。残念ながら、保証はできません(笑)。

でも、そんな時こそ、気分転換に色の話はいかがですか。今回はこの「ブルー」について考えてみましょう。ここで使っている「ブルー」という表現は「憂鬱」な気持ちを表わしていますが、どうして「青」なのでしょう。

今回も色々な観点から探ってみました。まず、「ブルー」＝「憂鬱」の由来には諸説あるようです。なので、最初に断わっておきますが、これは正確な情報というわけではなく、推測でしかありません。手掛かりをもとに、みなさんも一緒に考えてみてください。

①「憂鬱になると、血の気が引いて、顔が青くなるから」

シンプルで説得力があります。ですが、これが理由だと、なぜ英語になっていくのが気になりますね。

②「アフリカから奴隷として、アメリカに連れてこられた黒人の労働者たちは、晴れると畑仕事をやらなくてはならないので、青空を見ると憂鬱になったから」

この説もなるほどと思いました。つまり、黒人たちが労働をしながら口ずさんだ歌がブルース (blues) となったわけですから、その語源にもなっているといえそうです。しかし、次の説を見て、自分の中では、この考えが覆りました。

③「英語のブルーには、『青』という意味だけでなく、『憂鬱』という意味も含まれていた」

そして、英語には「blue devils」という言葉があります。これはまさに「憂鬱」

を意味しますが、この言葉が使われるようになったのは、ブルースが生まれるよりも前のようです。そう考えると、少なくとも、「黒人労働者にとっての青空」＝「憂鬱」ではなくて、もともと「ブルー」という言葉に「憂鬱」という意味があったからこそ、「黒人労働者たちの嘆き」＝「ブルース」となったのだと考えられるのが自然なように感じますが、みなさんはどう思いますか。

ちなみに、昔、面白いコンビのダウンタウンが「気分が沈むことを『ブルー』」というのが、一般的になったのは、自分たちが東京に進出して、テレビで使うようになったからだ」と言っていました。そうすると、関西圏では、もともと一般的な表現だったのかも気になりますね。

Devil day!

色たちの カーテンコール

これまでにみなさんと一緒に、色の成り立ちや性質について、色々と学習してきました。色という感覚が起こる過程、色にまつわる不思議な現象など、興味深い内容も多かったかもしれません。ここからは、それらの色の知識を実践的に活用するために、私たちの生活における、色の役割について、改めて考えてみましょう。

普段はあまり意識しないかもしれませんが、色があることによって、私たちの生活はずいぶんと助けられていますよね。

例えば、横断歩道にある信号機には、「赤は止まれ」「青は進んでいい」という共通認識があるので、私たちは安心して道を歩いたり、車を運転することができます。時代をさかのぼれば、太古の私たちの祖先は、木の実の色を見て、それが食べられるか、食べられないかを

判断していたのかな、なんていうことも想像できます。つまり、色には「内容を説明する」役割があるということが出来ます。

一方で、色は私たちの記憶に結び付いたり、感情を引き起こすという特異な性質も持っています。この性質があることによって、私たちは、ある色を見て、「美しい」と感じたり、「好き」とか、「嫌い」という印象を持ちます。

カラーデザインというと、「美しさ」や「好み」のことばかりが注目されがちのように感じますが、色を使うことによって、内容が伝わりやすくなり、その上で、そのものを利用する人が快適になったり、心を引き付けるようなことに結び付けるのが、本来の役目なのではないかなと考えたりします。

デザインをする側の好みで色を選ぶのではなく、それを使う側にとって、色がどうあるべきか、という風に考えた場合に、今号で紹介するさまざまな「配色の考え方」を1つの基準とするのが、有効ではないかと思えます。



配色を学ぶ前に 知っておきたいこと

配色の考え方は、これまでに分野・国・年代ごとにさまざまなスタイルが生まれてきました。それらの多種多様な手法を知ること大切ですが、まずは、配色を考えるための準備段階で必要となる基礎的な事項についてご紹介します。

何かを実現するための

色のことを学ぶにあたって、絵画などの芸術から得るものは、たくさんあります。ですが、芸術とは違って、ビジネスにおけるカラーデザインには、必ず達成すべき目標があるという、大きな違いがありますよね。

「子どもたちが楽しく遊ぶための遊具を作る」
「試験勉強で疲れた受験生のための栄養ドリンクを作る」
「花火大会を告知するためのポスターを作る」
「自社の商品をもっと売るための宣伝物を作る」

など、すべての制作物には何かを実現する「〇〇のための」があります。それを実現するためにどうするかを考えるのが「デザイン」ということです。

目標を実現させるための手立てを考える際には、事前準備が必要となります。それが、マーケティングや企画と言われるものです。
例えば、新商品のスナック菓子を売るためには、
「どういった目で、どういう香り、どういう味で、どういう食感なのか」
「ターゲットはどのような層なのか」
「いつどこで売るか」

「競合商品にはどんなものがあるのか」など、たくさんを知ることがあります。カラーデザインは、こういった情報をもとに「ターゲットの嗜好色」「流行色」「競合商品のカラーデザイン」などと照らし合わせて考える必要があるのです。
したがって、プロフェッショナルとして色を扱うには、「感性」だけでは成立しないといっているでしょう。もちろん、美しい配色を作り出すという技術は必要ですが、それを示すための根拠を説明できなくては、ビジネスの世界では成立しないのです。

「マーケティング」から「デザイン」への流れ

【マーケティング】

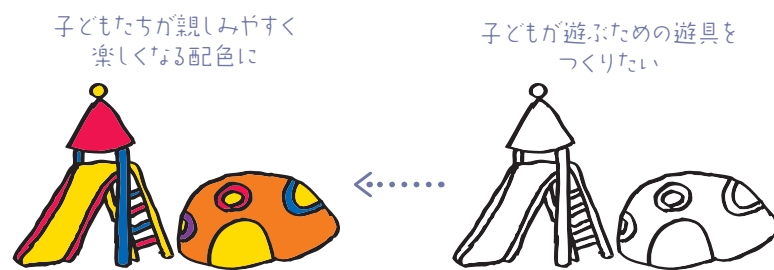
- ・ 情報収集（調査）
- ・ 分析
- ・ トレンドカラーの把握
- ・ ターゲットの嗜好色の把握など

【企画】

- ・ 商品コンセプトの立案
- ・ カラーコンセプトの立案

【デザイン】

- ・ 機能性の表現
- ・ 美的情緒性の表現
- ・ カラーデザインの実施



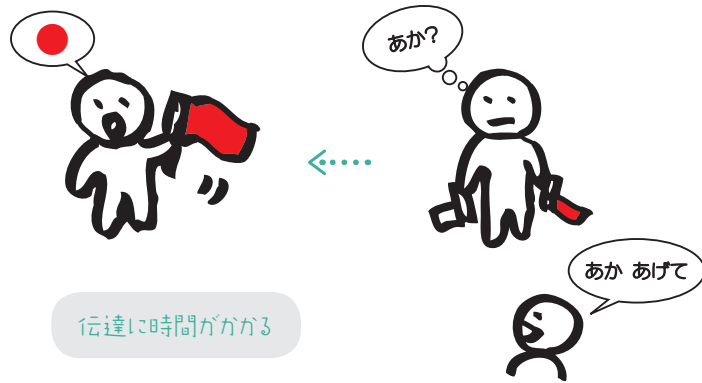
色が何かを伝えるのに 適している理由

前項では、色の役割を「内容を説明すること」と述べましたが、もっと詳しく言うと「直感的に説明すること」です。例えば、文字も「内容を説明する」ためありますが、文字には、必ずそれを読むためのタイムラグが付きます。よね。しかし、色は暗い場所でない限り、見た瞬間に何色かが分かります。そして、ここで示された色は、見た人のなんらかの感情に働きかけるのです。

このように、瞬時に伝える能力が高いからこそ、私たちは水とお湯が出る、水道の蛇口を滅多に間違えたりしないんですね。仮に情報の伝達速度という点で、「色」と「言葉」が同等だとしたら、「旗揚げゲーム」は成立しないでしょう。

この他に、色が「直感的に説明する」のに適している点として、種類が豊富であるということが挙げられます。もっとも色域が広いRGBでは、約1670万種類の色の表現が可能ですが、国語辞書に収録されている語彙の量は、6万、10万語程度です。約1670万種類の色の違いを私たちの目で見分けることができずに、色には言語をはるかに上回るボキャブラリーが存在していると言っても過言ではありません。

言葉による伝達



色による伝達



複雑でデリケートな世界

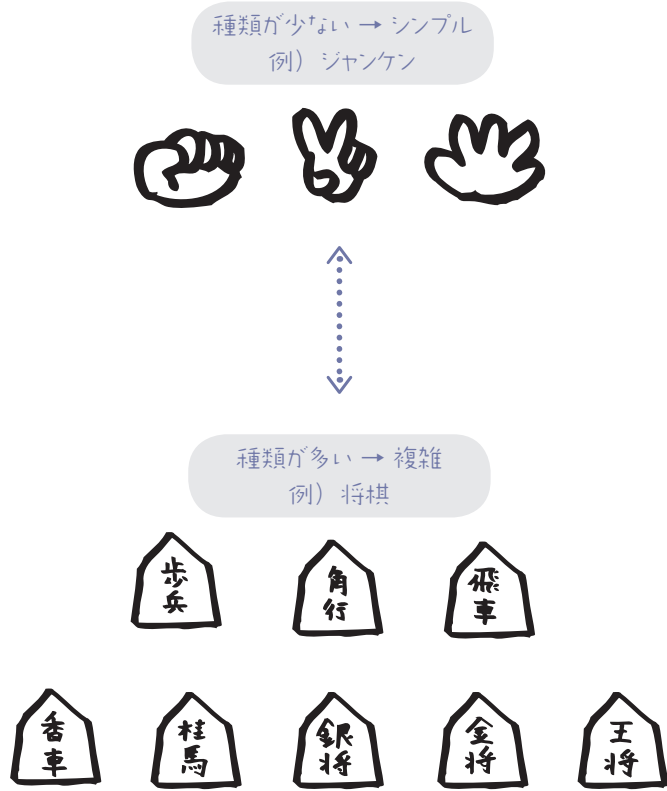
「色で表現できるボキャブラリーは豊富である」ということが、言語との比較からも分かってもらえたと思います。さらに考えを深めていくと、種類が豊富であるということは、「複雑さ」に繋がるといえることが分かります。

これは、ゲームに置き換えると分かりやすいかもしれません。ジャンケンには、「グー」「チョキ」「パー」という3種類の手で成り立つシンプルな構成ですが、将棋は8種類・計20枚の持ち駒を使うので、ジャンケンに比べて戦略性が高く、駒の動かし方の微妙な違いが、腕前の差となります。

種類が豊富であるということは、それぞれの違いが微妙になるということにも繋がりますから、それだけ色はデリケートで、複雑な表現だということです。

その複雑な世界を上手くコントロールするために作られたのが、「調和」という考え方です。「調和」は「ハーモニー」と言い換えることもできますが、これは、元を辿れば、西洋音楽から生まれた概念でした。要するに、複数の音が重なった時に、それらが調和しているように感じられるものを「協和音」と定義したものです。色にも音と同じように、調和・不調和があります。これらを上手くコントロールすることによって、機能性に優れたカラーデザインの実現が可能となるのです。

バリエーションによる変化



調和という考え方

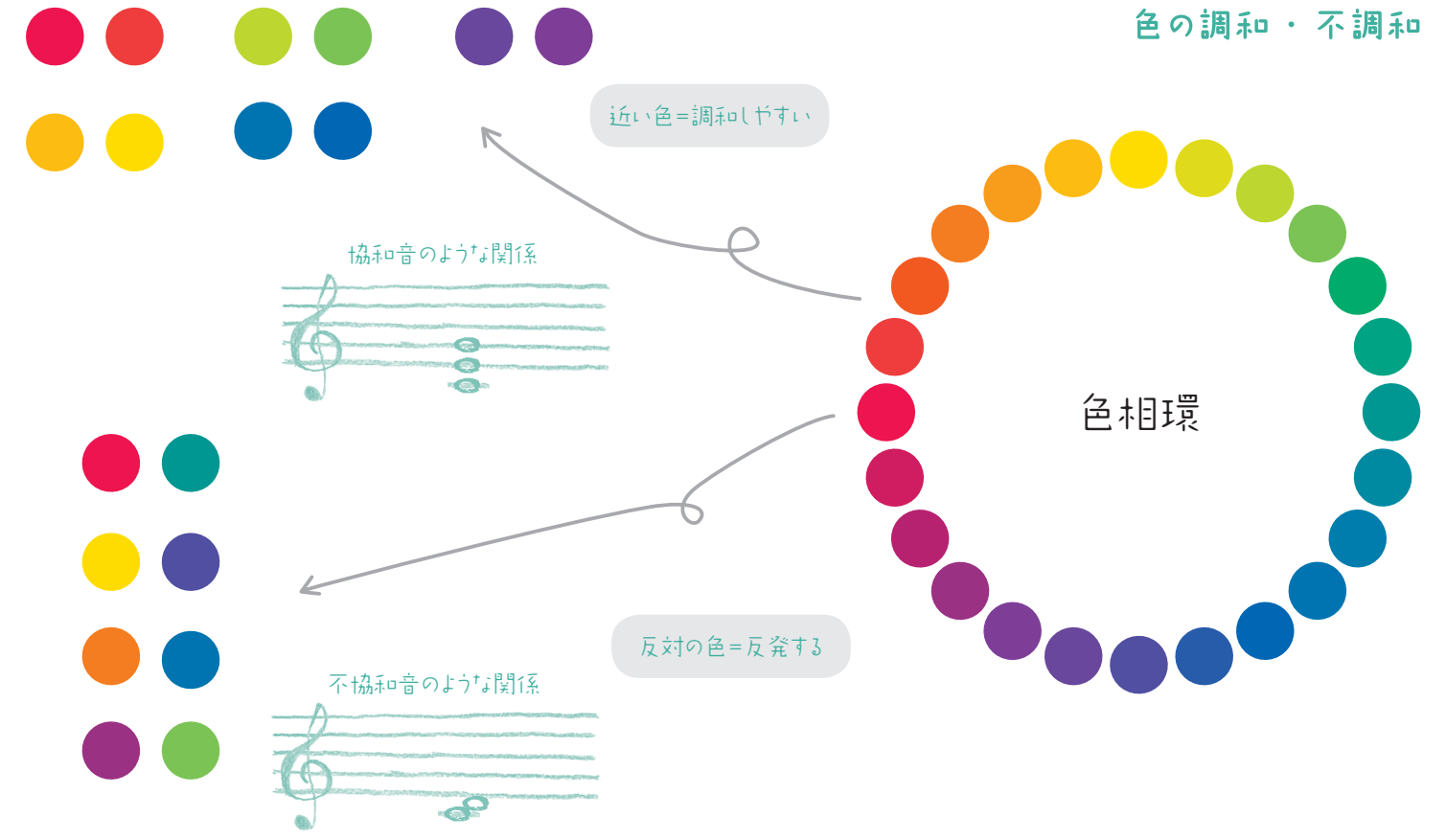
色の調和を分かりやすく示している一例が、**色相環**です。色相環は、光を分光した時に現れる7つの光（色相環にはいくつもの種類があり、色の数は、必ずしも共通ではありません）を円形に並べたものですが、この位置関係が調和・不調和に、そのまま反映されます。つまり、**色相環上で近い色同士は調和しやすく、遠いものは調和しにくい**のです。

色相環で対立する位置関係にある色同士のことを、**補色**といいます。これらの色を組み合わせることは、音の世界でいうならば、「不協和音」といえるでしょう。それでは、補色同士を組み合わせるにはいけないのかというと、そんな単純な話ではありません。というのも、この「調和」という概念は、飽くまでも、西洋の歴史から生まれた、1つの基準でしかないからです。

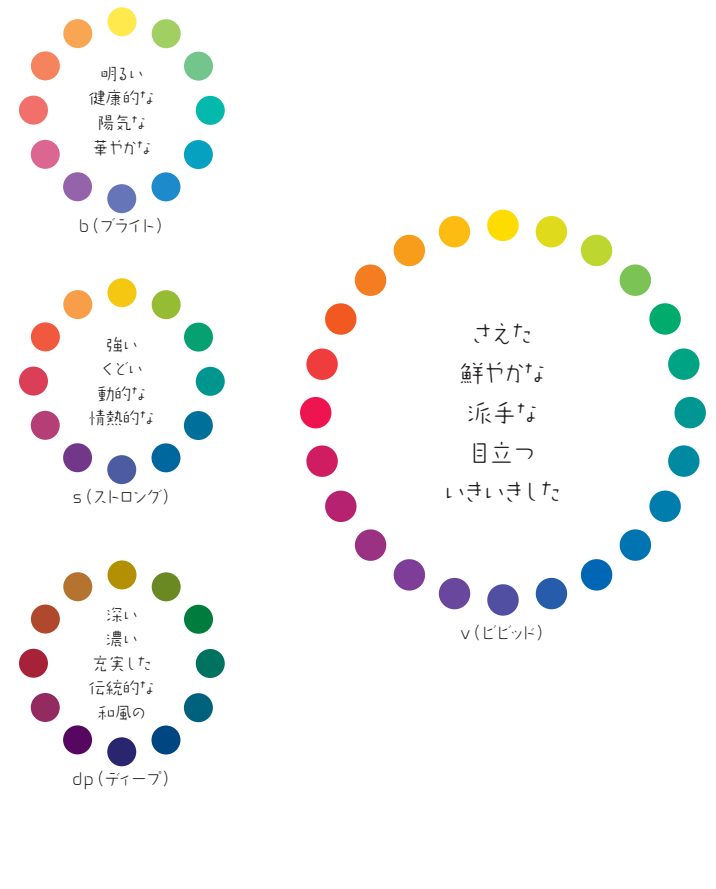
西洋の音楽の世界でも、西洋以外の民族音楽などに影響を受けて、それまで「不協和音」とされていた音の組み合わせが取り入れられてきました。結果として、音楽の表現の幅は広がったわけですが、色の世界でも同じようなことがあったのでしょうか。

そもそも、「調和・不調和」という概念自体が、嗜好と同じように、文化・民族・年代ごとに異なるということを理解しておく必要があります。

色の調和・不調和



PCCS トーンのイメージワード



トーンから考える調和

「明度」「彩度」を1つにまとめて、「色調（トーン）」といいます。色の調和を考えるには、この観点も忘れてはならない要素です。

トーンには、「同じトーンの色同士は調和しやすい」という法則があります。上にあるトーンマップを見ると分かりますが、確かに同じトーンに分類されている色は、どれも似たような雰囲気を持っています。

なぜ、同じトーンに分類されている色が、同じ雰囲気を持つていて、調和しやすいのかというと、これもそれほど難しいことではありません。

トーンマップの右側にあるのは、vトーン（純色）といって、先ほど取り上げた色相環で示される色と同じものです。色相とは、色みのことですが、この「色み」というものを表現するには、このvトーンに分類される色があれば充分なのです。

トーンマップの左側にあるのは、彩度がなく、明度のみで構成された色で、無彩色といわれるものです。マップの位置関係のとおり、**純色と無彩色は反対の関係**にあります。

つまり、トーンマップの中間にあるものは、それぞれ、純色に対して無彩色を

色相環の正体

色相環を使った「調和・不調和」の概念は、西洋で生まれた1つの基準でしかありません。ですが、他国でも受け入れられ、現代にも通用する優れた理論の1つであることは間違いありません。

確かに、色相環上で近い位置にある色同士は馴染んで見えますし、反対にある色を組み合わせると、なんとなく落ち着かない感じがします。おそらく、多くの人が同じような印象を受けるのではないのでしょうか。

それもそのはず、これは誰かが個人の感覚で作ったものではありません。最初に述べたように、「光を分光した時に現れる7つの光」をそのまま並べたものです。したがって、隣り合った色は、**自然の摂理にかなった配置**がされているということなのです。

逆に言うと、**補色同士を並べると**いうことは、**自然の摂理に逆らった並び**ということになります。そんな組み合わせだからこそ、力強いインパクトを感じさせるのではないのでしょうか。

ただし、これも1つの軸に基づく考え方に過ぎません。これまでの色相環を使った説明は、色の3属性でいうと、「色相」に着目したものでしかありませんが、この他にも、色の調和・不調和を考えるには、「明度」「彩度」のことも考える必要があります（「明度」「彩度」については、本誌2号、P20〜23に記載）。



足したものとということです。よって、同じトーンに分類されている色同士は、1つの純色に対して、同じ分量の無彩色を足しているのです。同じような印象になり、調和しやすくなります。

さらに、興味深いのが、vトーンでは、力強く感じる色が、pトーン・1tgトーンなどの低彩度のトーンになると、一様に穏やかな印象に変化することです。

これは、**彩度が低くなったことにより、色相の効果が減少し、明度の効果が表わ**れているためです。このように、色は1つの軸では判断できない奥の深さがあります。

再び調和の話に戻りますが、配色を考える時には、これまでに挙げた「色相」と「トーン」を軸に考える方法があります。色相やトーンを揃えて馴染ませるか、離して強調するのか、もしくは、中間でバランスをとるといった選択肢もあるでしょう。

いずれの選択をするにしても、**何かを実現するために、表現したいものがあり、表現したいものに合わせた配色がある**という根本を忘れないようにしましょう。

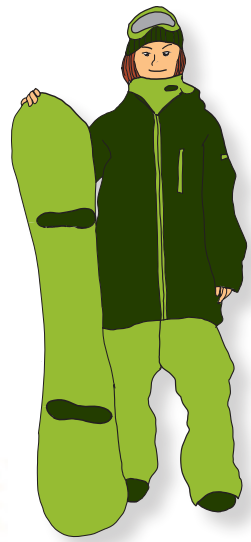
いろいろな色をコーディネートする

coordination has to be so!

これまでも何度か述べてきたように、配色の手法には多様なスタイルがありますが、ここでは、色相とトーンに着目した代表的な手法をいくつかご紹介します。

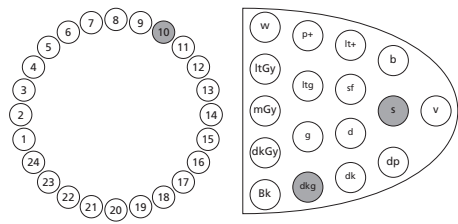
色相を揃える

HUE



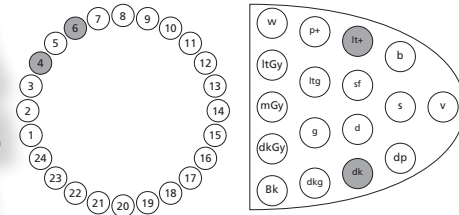
No.07

dkg10 s10



No.05

dk4 lt6+

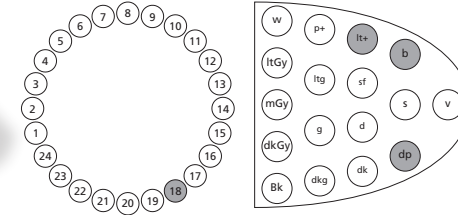


光の当たるところは明るく
影になるところは暗くって
いう感じは自然界とおなじわ

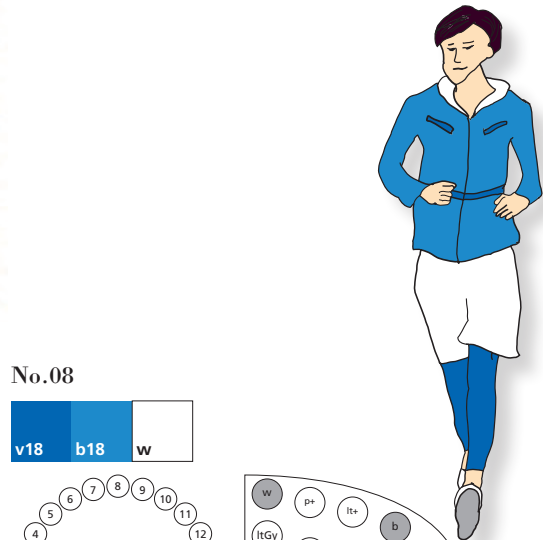
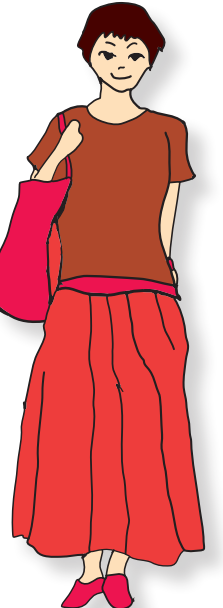
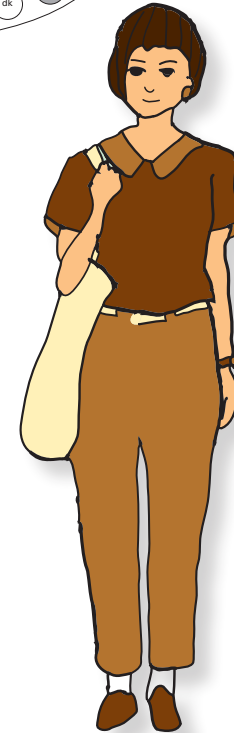


No.03

dp18 b18 lt18+

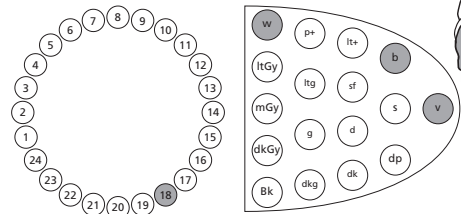


使用する色の色相関係が
まとまっているから
色相の効果が発揮されやすいの



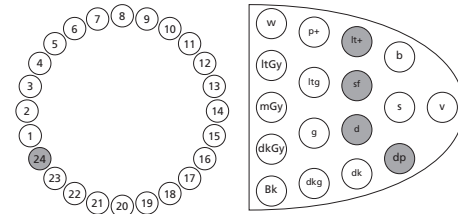
No.08

v18 b18 w



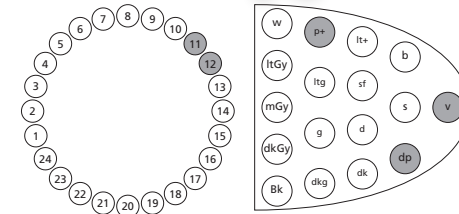
No.06

dp24 d24 sf24 lt24+



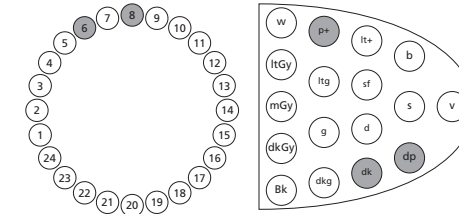
No.04

dp12 v11 p12+



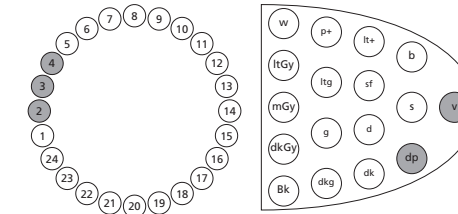
No.02

dp6 p8+ dk6



No.01

v2 v3 dp4



chapter

2

トーンオントーン配色

その名のとおり、「トーンの上にトーンを重ねる」という配色です。ドミナントカラー配色と同様に、色相を同一色相・隣接色相・類似色相に絞って色を選択しますが、色数に制限はありません。ドミナントカラー配色との違いは、明度差を付けて色を選択する点です（トーンマップでは、縦方向の位置関係）。明度の順に配置し、段階的に差を付けることによって、自然界にあるような、多くの人にとって馴染みやすいグラデーションを作ることができます。

chapter

1

ドミナントカラー配色

「ドミナント」は「統一する／支配する」という意味です。すなわち「色相を統一した配色」のことを指します。色を同一色相（色相差0）・隣接色相（色相差1）・類似色相（色相差2～3）に絞りますが、トーン・色数・配置する順番に決まりはありません。彩度を高くするほど、色相の持つイメージを強く打ち出すことができます。

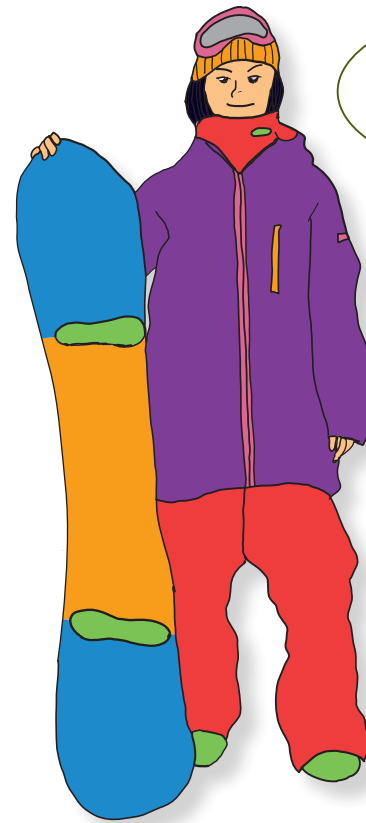
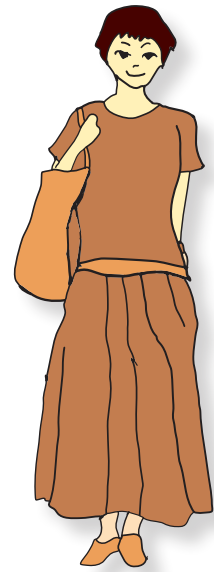
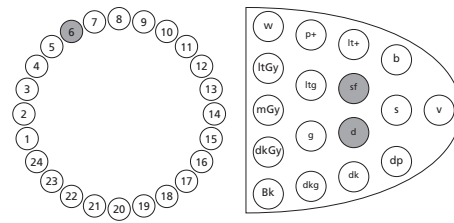
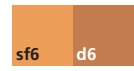
参考にする際の注意点

配色の考え方を分かりやすく伝えるために、例を掲載していますが、厳密にいうと、色には必ずそれに伴う質感（どんな素材に着色するか）があり、それによっても印象は異なります。また、それらの配色を行う際の面積比によっても、印象は異なるので、参考にする際にはこれらの点についても考慮しましょう。

Coordination has to be so!

HUE

No.15

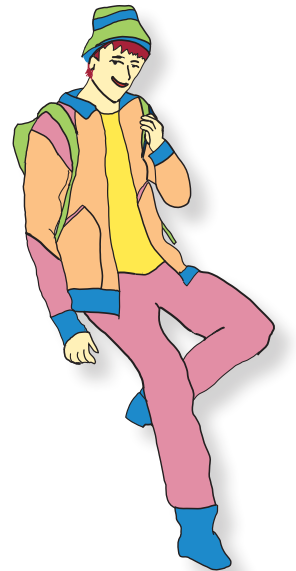
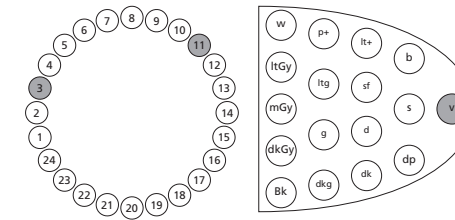


たくさん色を使っても
トーンを揃えることで
調和と変化をバランスよく
取り入れられるんだぜ!

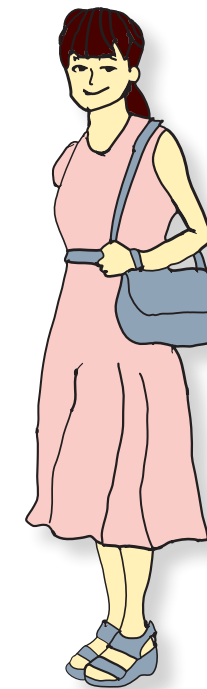
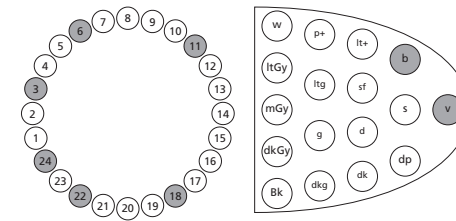


トーンを揃える TONE

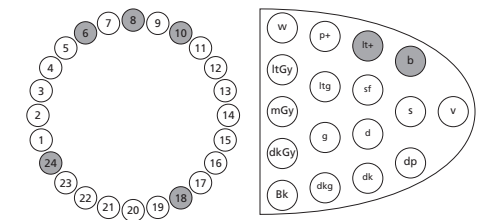
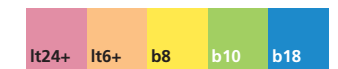
No.10



No.12

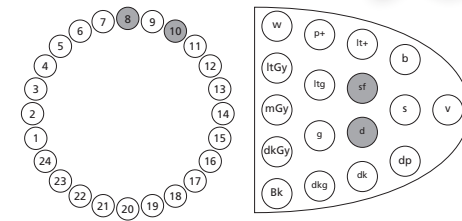


No.09

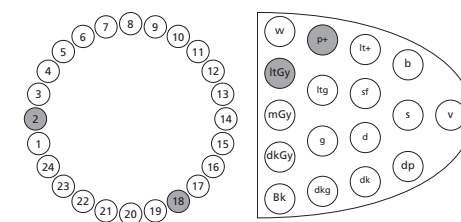
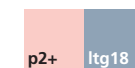


中間色調のトーンに
限定することで
穏やかで落ち着いた
イメージになるの

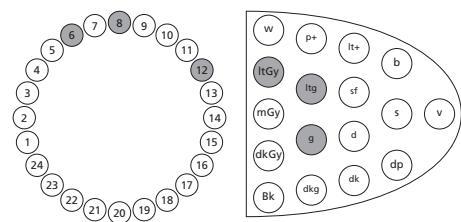
No.13



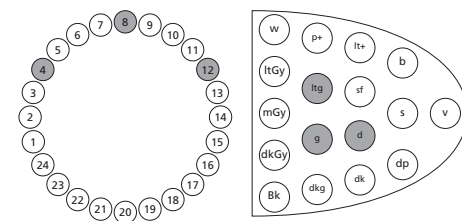
No.11



No.16



No.14



Coordination has to be so!

chapter

4

トータル配色

大別すると、ドミナントトーン配色に含まれますが、トータル配色では、
選択できるトーンに制限があります。使用可能な色は、dトーンを中心に、
sfトーン・ltgトーン・gトーンの中～低明度、中～低彩度の中間色のみなので、
比較的色みの弱い配色となります。
なお、色相・色数・配置する順番に決まりはありません。

chapter

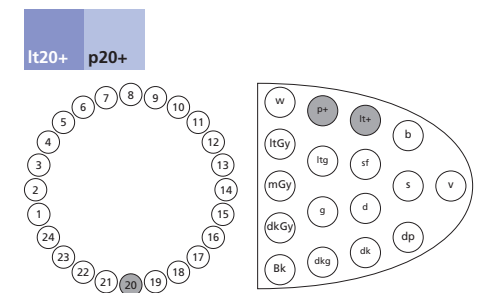
3

ドミナントトーン配色 (トーンイントーン配色)

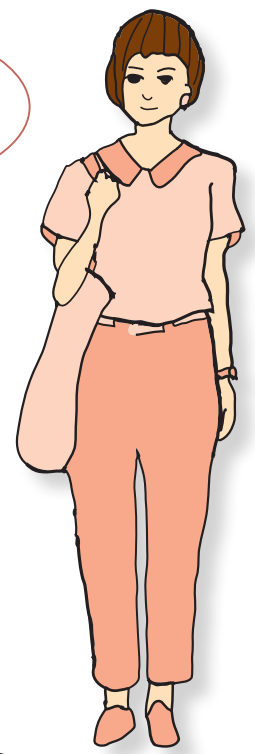
トーンを統一した配色です。「ドミナントトーン配色」と「トーンイントーン配色」という
2つの名称がありますが、どちらも同じ配色のことを指します。
同一トーン・類似トーンから色を選択しますが、色数・色相に制限はありません。
同じようなトーンに色を絞ることによって、トーンの持つイメージが強くなります。
なお、低彩度になるほど色みは弱くなるため、必然的にトーンの影響が全面に出ます。

色相とトーンを揃える HUE & TONE

No.18

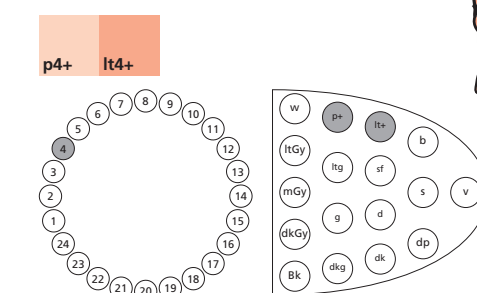


カマイユの語源はカメオなの。
カメオは大理石や貝殻に
浮き彫りをした装飾品のことよ

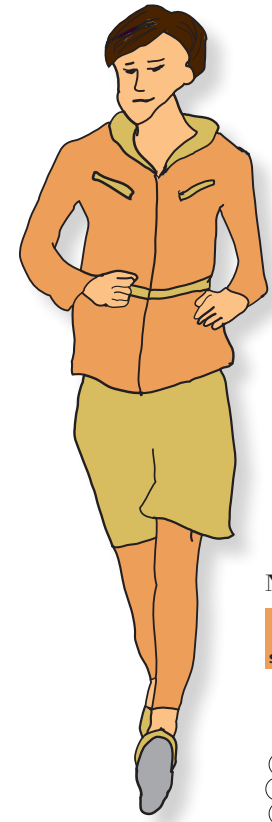
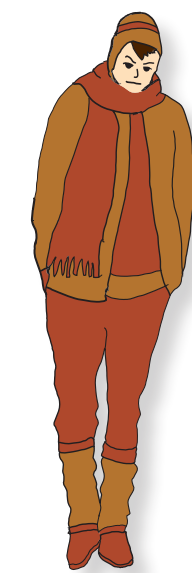
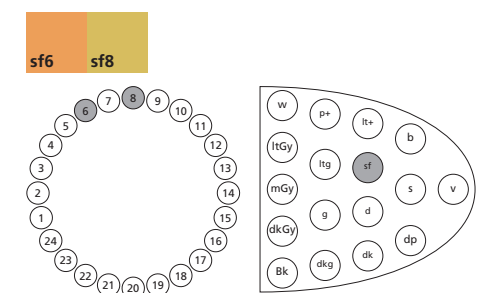


HUE & TONE

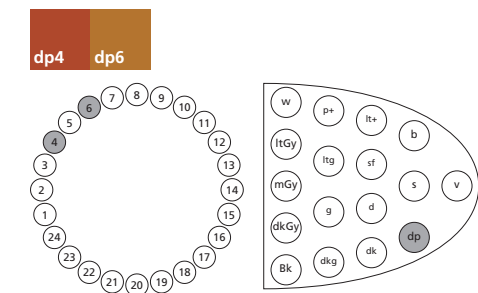
No.17



No.19



No.20

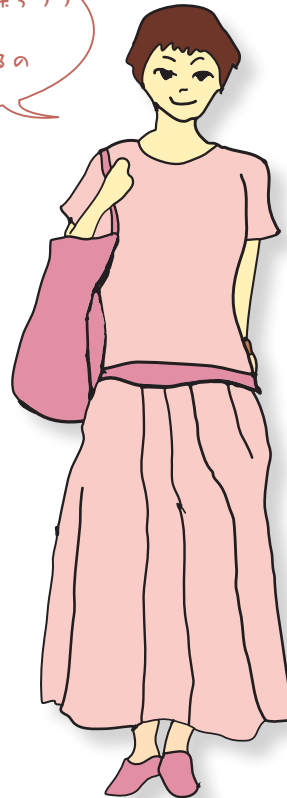
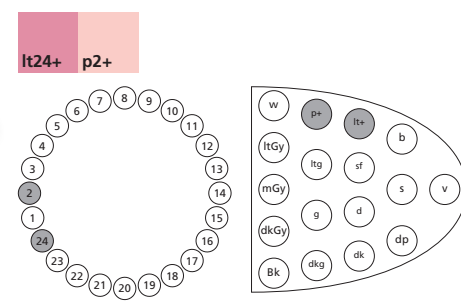


chapter 5

カマイユ配色

「カマイユ (camaieu)」とは、フランス語で「単色画法」を意味します。この配色手法では、色相を同一色相 (色相差0)・隣接色相 (色相差1) に絞ります。トーンも明度差・彩度差の少ない同一トーン・類似トーンに限定しますが、色数に制限はありません。遠くから見ると、単色に見えるほど、色に違いがないので、統一感のあるイメージとなります。

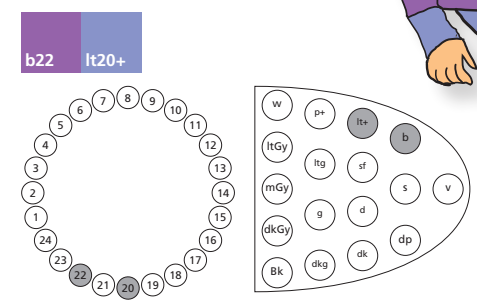
No.21



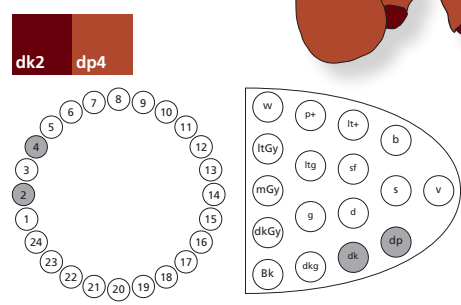
カマイユ配色の統一感を保ちつつ
ちょっとした変化で
動きを付けることができるの



No.22



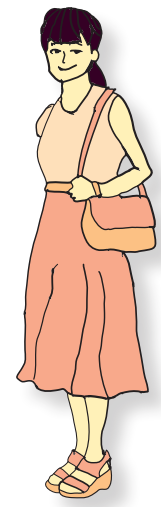
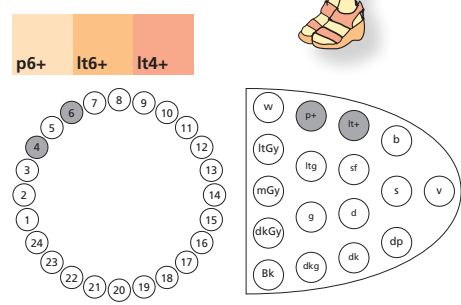
No.23



chapter 6

「フォカマイユ」の「フォ」は、「偽り」を意味します。カマイユ配色と同様に、一見単色のように感じられますが、微妙に色相を変化させる配色です。色相は、類似色相 (色相差2~3) に絞ります。トーンは、明度差や彩度差を少し付け、同一トーン・類似トーンでまとめますが、色数に制限はありません。統一感の中に、微妙な変化を付けることのできる配色手法です。

No.24



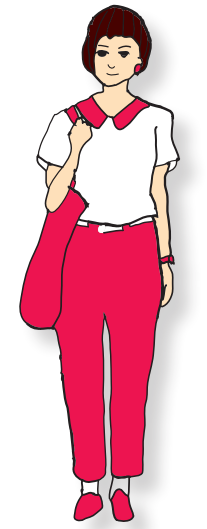
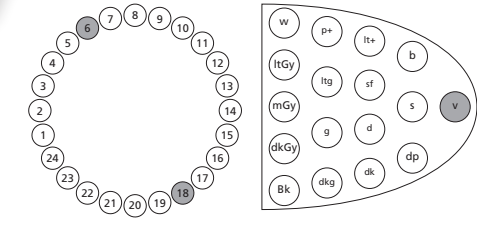
Coordination has to be so!

色相やトーンを離す HUE & TONE

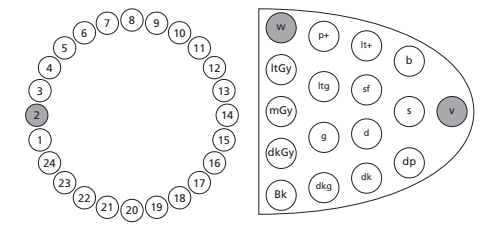
対立する色同士を
組み合わせるから
トーンを揃えて
なじませてください！



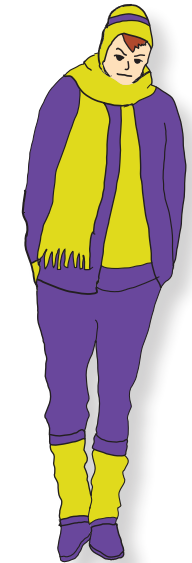
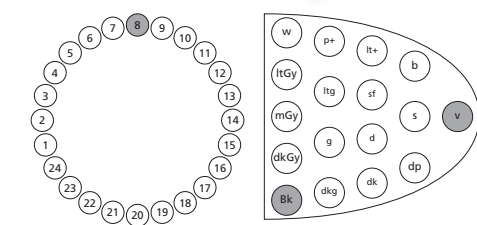
No.26



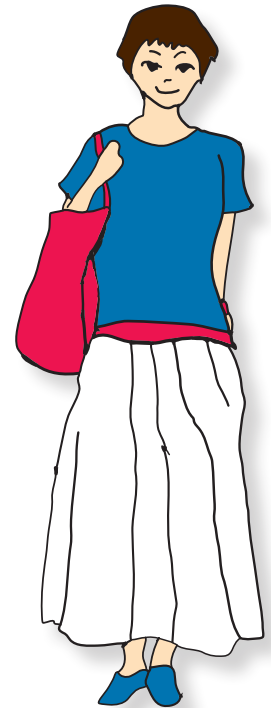
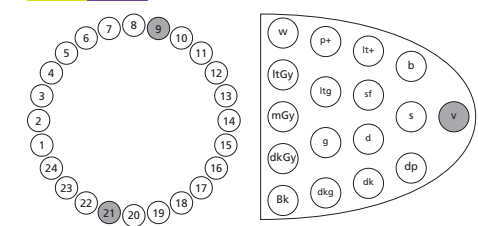
No.25



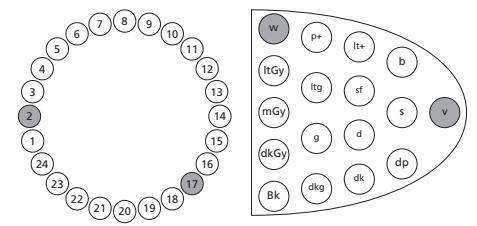
No.27



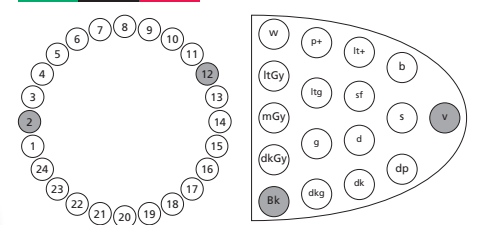
No.28



No.29



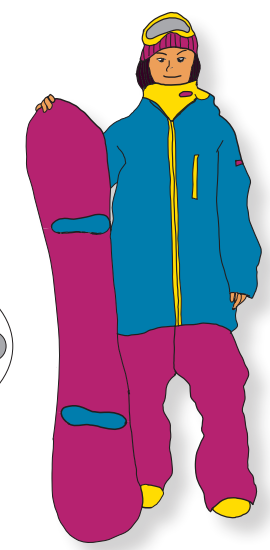
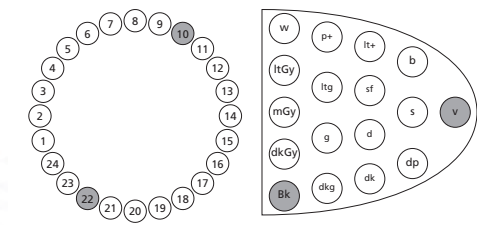
No.30



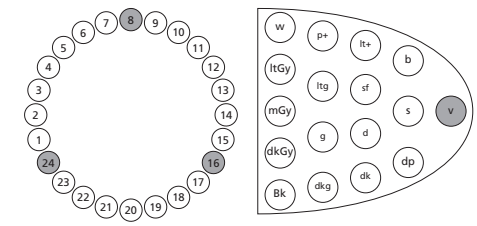
対立する色同士でも
無彩色を間に入ると
上手くまとめられる感じ♪



No.32



No.31



HUE & TONE

Coordination has to be so!

chapter 8

トリコロール配色

「トリコロール (tricolore)」は、フランス語で「3色の」を意味します。色相・トーンを選択方法はビコロール配色と同様ですが、色数は1つ増え、3つ使用します。ビコロール配色と同様に、色同士に明度差・彩度差を大きく付け、sfトーン・dトーンの色は使用しません。なお、3色の配色であっても、明快なコントラストがない場合は、「トリコロール配色」とは言いません。

chapter 7

ビコロール配色

「ビコロール (bicolore)」は、フランス語で「2色の」を意味します (英語では「bi-color (バイカラー)」。色相は、対照色相 (色相差8~10)・補色色相 (色相差11~12) の組み合わせで、高彩度のトーンから選択します (無彩色との組み合わせも可能)。色同士に明度差・彩度差を大きく付け、sfトーン・dトーンの色は使用しません。色数は2つに限定されますが、色数を絞ることによって、明快な印象が得られます。

【特別付録】

PCCS ⇔ CMYK 対応表

	C	M	Y	K
v1	15	100	45	0
v2	0	100	60	0
v3	0	90	80	0
v4	0	80	100	0
v5	0	63	100	0
v6	0	45	100	0
v7	0	28	100	0
v8	0	10	100	0
v9	15	5	100	0
v10	30	0	100	0
v11	55	0	88	0
v12	90	0	80	0
v13	90	8	63	0
v14	100	15	50	0
v15	100	8	25	18
v16	100	0	0	35
v17	100	30	0	18
v18	100	60	0	0
v19	90	70	0	0
v20	80	80	0	0
v21	70	85	0	0
v22	60	90	0	0
v23	45	95	15	0
v24	30	100	30	0

PCCS トーンマップにある 156 種類の色を CMYK の数値 (近似値) に置き換えたものです。これらの数値を利用することで、トーンマップを使った配色の手法を簡単に利用することができます。

b2	0	70	50	0
b4	0	60	65	0
b6	0	40	75	0
b8	0	5	80	0
b10	40	0	80	0
b12	55	0	60	0
b14	75	0	40	0
b16	85	15	20	0
b18	80	35	0	0
b20	65	35	0	0
b22	45	70	0	0
b24	0	70	10	10

	C	M	Y	K
dp2	30	100	80	10
dp4	30	85	100	5
dp6	30	60	100	3
dp8	0	20	100	35
dp10	40	0	100	40
dp12	95	10	100	25
dp14	100	0	60	40
dp16	100	0	10	55
dp18	100	60	0	35
dp20	90	90	0	35
dp22	60	100	0	40
dp24	50	100	50	0

	C	M	Y	K
d2	10	70	50	20
d4	10	65	55	15
d6	10	50	70	15
d8	5	12	75	30
d10	35	10	70	25
d12	55	10	55	30
d14	80	20	50	20
d16	85	40	30	20
d18	80	50	20	30
d20	70	60	20	20
d22	50	80	10	20
d24	10	70	10	30

	C	M	Y	K
ltg2	7	26	15	13
ltg4	18	27	27	0
ltg6	11	23	27	5
ltg8	20	20	40	0
ltg10	17	6	35	12
ltg12	23	0	23	23
ltg14	41	0	20	15
ltg16	50	12	17	8
ltg18	34	17	9	17
ltg20	40	27	13	7
ltg22	24	23	12	12
ltg24	22	34	22	0

s2	10	90	60	0
s4	0	80	80	0
s6	0	45	80	0
s8	5	20	100	5
s10	40	0	100	10
s12	85	0	70	10
s14	90	20	50	0
s16	100	0	0	45
s18	100	50	10	10
s20	75	65	0	10
s22	60	90	0	10
s24	30	90	30	0

	C	M	Y	K
sf2	0	55	30	10
sf4	5	50	50	5
sf6	0	40	70	5
sf8	8	15	70	10
sf10	35	5	70	5
sf12	55	0	50	8
sf14	65	0	40	10
sf16	70	20	20	10
sf18	70	40	10	10
sf20	60	50	10	5
sf22	35	55	0	10
sf24	15	50	20	10

	C	M	Y	K
p2+	0	23	14	0
p4+	0	19	21	0
p6+	0	12	28	0
p8+	0	4	33	0
p10+	9	0	28	0
p12+	20	0	22	0
p14+	30	0	17	0
p16+	32	0	7	6
p18+	31	13	4	0
p20+	27	19	0	0
p22+	16	23	2	0
p24+	0	25	3	5

	C	M	Y	K
dkg2	0	100	60	85
dkg4	0	85	90	85
dkg6	0	50	100	85
dkg8	0	15	100	85
dkg10	40	0	100	85
dkg12	90	0	80	85
dkg14	100	20	50	85
dkg16	100	40	20	85
dkg18	100	65	0	85
dkg20	90	80	0	85
dkg22	75	85	0	85
dkg24	40	90	20	80

イロハ N°4 は 6 月発行予定です。

next contents...

- いろいろな色をコーディネートする 色相環編
- 世界の色紀行 4th trip ドイツ編 etc

※発行する時期や内容は変更になる場合があります。

世界の色紀行

3rd trip フランス編

世界には、それぞれの国の異なった環境や文化を反映した、さまざまな色彩文化があります。バラエティーに富んだ色彩文化のを探ってみるだけでも、世界を旅するような気分が味わえますよ。

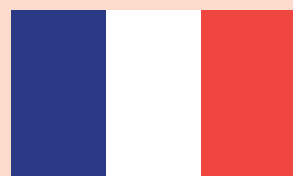
トリコロールの経緯

フランスの国旗は「トリコロール」と呼ばれるもので、青には「自由」、白には「平等」、赤には「博愛」の意味が込められています。

これは、1789 年のフランス革命において、革命派が掲げた旗に由来しており、それに続くナポレオン 1 世がそのままフランス国旗として採用したものです。ナポレオンの死後、1830 年に、オルレアン公ルイ・フィリップが正式な国旗にしたと言われています。

ちなみに、配色の手法として、「トリコロール配色」がありますが、この場合には、必ずしもこの色の組み合わせとは限りません (詳細は 53 ページ)。ただし、国旗のことを指す場合、フランス国旗の配色のことを指します。

トリコロール



かつて、それぞれの色の面積比は「30 : 33 : 37」(「33 : 30 : 37」という説もあり)となっていたが、現在は海上でのみ、この比率が採用され、それ以外では等しい幅が採用されている。

禁じられたピンク

18 世紀のフランスでは、絶対王権が確立し、国が安定するという背景も手伝って、貴婦人たちによる華やかなサロン^{*1} 社会が栄えました。

そんなサロン社会の中でも、ルイ 15 世の公妾 (公認の愛人) だったポンパドール侯爵夫人は、学芸的な才能に恵まれていたことで有名です。彼女は、ロココ^{*2} 文化の保護・育成、フラゴナールやプーシェなどの雅楽画家^{*3} の支援といった芸術の分野への援助に尽力しますが、特にセーブル製陶所の援助・育成に力を注ぎました。

この功績を称えて、化学者のエローは、独自のピンクの顔料を開発し、これを「ポンパドール・ピンク」と名付け



- *1 サロン**
宮廷や邸宅で行われる社交会。貴族などが文化人、学者、作家などを招待し、文学、芸術、学問に関する知的な会話を楽しんでいた。名称はフランス語で「客間」を意味する「salone (サロネ)」に由来する。
- *2 ロココ**
18 世紀のフランスからヨーロッパに波及した美術様式。左右非対称、曲線の多用、繊細さを特徴とする。
- *3 雅楽画家**
雅楽画 (がえんが) とは、屋外に集まり、音楽や談笑を楽しむ男女を描いた絵画のこと (別名「フェート・ギャラント」)。18 世紀のフランスで流行した画風であり、これを描く画家のことを雅楽画家と言う。
- *4 ツール・ド・フランス**
フランスとその周辺国で、毎年開催されている自転車プロロードレース。1903 年から開催されている世界最大級の自転車ロードレースである。

イロハ

i r o h a N°3
2018. SPRING



株式会社 アイワード

<http://www.iword.co.jp>

本 社 〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目5番地91

東京営業部 〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目4番3号 高岡ビル6階

札幌工場 〒060-0033 札幌市中央区北3条東4丁目5番地64

石狩工場 〒061-3241 石狩市新港西3丁目768番地4

TEL 011-241-9341 FAX 011-207-6178

TEL 03-3239-3939 FAX 03-3239-3945

TEL 011-251-0009

TEL 0133-71-2777 FAX 0133-71-2895